

第11回通常総会開催される!

新型コロナウイルスの影響でしろやま農業研修センターでの開催が不可能となり、書面による議決権行使での開催が余儀なくされました。

去る3月26日に営農組合会議室にて開催され、下記のような結果となり全ての議案が賛成多数で承認された事をご報告させていただきます。

ご協力ありがとうございました。



書面決議書を開封する出席者
(志方東営農組合会議室で)

組合員615名 出席者8名 書面決議書提出526名
出席者合計534名

全体の過半数の出席があり総会は成立しました。

<決議内容>

第1号議案	賛成532	反対2
第2号議案	賛成533	反対1
第3号議案	賛成532	反対2
第4号議案	賛成529	反対5
第5号議案	賛成531	反対3

皆さんから寄せられたご質問・ご意見に対する回答

第1号議案 志方東営農組合組織機構図に対するご意見

★各支店長枠に支店長名を入れていただければ幸いです。

A: 当営農組合のホームページで各支店長の紹介をしています。又、他の情報も沢山掲載しておりますので是非一度ご覧いただければ幸いです。

第3号議案 令和2年事業計画についてのご質問

Q: 現在シロガネ小麦を栽培していますが、ゆめちからを栽培した場合利益率はどう変わるのですか?

A: ゆめちからはシロガネ小麦より収穫量も多く、又JAの買取価格も国の営農継続支払いの設定価格も高く確実に利益は上がります。しかし、ゆめちからはシロガネ小麦より収穫時期が遅く梅雨の真ただ中での収穫となります。又、肥料の散布調整も細かくやる必要があり、それ相応の高いリスクを抱えることとなります。

現在、ゆめちからの種子は一定量しか供給できません。それを栽培希望支店へ配分しているのが現状で、もしご質問者の支店でゆめちからの作付を考えているのであれば早めに本店まで申し込んで頂きたいと思います。よく支店長と相談されてみてはいかがでしょうか。

第4号議案 令和2年理事・監事の報酬についてのご意見

★450万円の明細を明記すべきである。

A: 理事・監事の報酬総額は総会で承認された後、理事会で支給額を決定する事が一任されています。

全体を通じてのご意見

★今後、事業を新規に計画する場合は必ず組合員に相談する事。

A: 今まで総会での承認を得てから実行してきました。今後も変わる事無く総会での承認が全てです。



★令和元年産そばの乾麺が完成しました!

既にJAふぁーみんショップで販売しています。お使い物などご利用されたい方は、当営農組合本店でも注文を受け付けますのでよろしくお願い致します。5割そばですから、そば本来の風味がたっぷりですととても美味しいですよ!



★昨年、「しかた味噌」を販売させていただきましたが、大変好評につき本年もみなさんへお届けしたいと現在、味噌加工業者に製造を委託しております。安全・安心の「しかた味噌」 本年もお引き立てよろしくお願い致します。



★ドローンによる農業散布実施!

4月中旬に小麦ヘドローンを利用した農薬(赤カビ用殺菌剤)散布を行います。当営農組合としては初の試みです。興味のある方は現場へ是非、足を運んでみて下さい。実施圃場等詳しくは各理事へ後日案内致します。



★竹炭販売!

この度、岡支店によって竹炭が製作されました。防臭効果用等に幅広く利用されている竹炭をJAふぁーみんショップで販売する予定です。



◆新型コロナウイルスからの教訓

世界は食料争奪の時代に入り、日本が買い付ける場面も増えた。中国での爆発的な感染拡大で同国からの輸入が野菜を中心に停滞した。当たり前のように食料を調達できる時代ではない。食料の安定供給は消費者にとって重要課題だ。 -日本農業新聞より-

あらためて国内産農作物がいかに重要か思い知らされた人も多いと思います。当営農組合も地域農業を通じて国内産供給に一翼を担っていることを認識し、これからの運営の励みにしたいと思います。

先般はアンケートにご協力ありがとうございました。その中でQ6の「あなたが思う人の確保と育成に向けた具体的な方法、ご意見、アイデア等をご記入ください」に寄せられた多数のご意見を全て紹介したいと思います。

- ・外国人の農業者を検討。
- ・当地区が魅力ある場所だという事を発信してほしい。
- ・各企業も人手不足で定年が伸びる中、若手の確保は難しく、高齢化は防げません。人手不足を補うには機械化が必要と思いますが、現状の機械を修理して運営していくのが精一杯でその予算をどうするかが問題だと思います。
- ・現在参加しているのは高齢者ばかりなので組合員以外でも、農地保全のための活動に参加してもらえようとした方が良いでしょう。
- ・志方東地区での男性作業員確保は無理。他地区の作業員や地域内の女性作業員が安全で安心できる作業環境を作る事が必要。
- ・若い人の参画、オペレーターの教育。
- ・コストさえ合うのであればアウトソーシングなど進めるべき。
- ・大規模農家の育成が必要になると思います。数名で東志方の農地をすべて管理するとか、人数の多い組織は田舎では無理がある。人の確保が無理だから。
- ・業者に依頼する。(今から特に協力できる人がいないと思われるから)
- ・高齢化のため人材確保は難しい。若い人の育成が不可欠ですね。
- ・畑支店では町内会と将来に向けた話し合いを通じ、地域資源保全管理構想、人・農地プランを展開していこうと考えています。その中で担い手確保についても取り組んで行くことも考えている。
- ・Uターン・Iターンを希望する者が目を向けてくれるような環境土壌づくりが肝要だ。
- ・後継者がだんだん少なくなり、戸数も減っていく中で中々良いアイデアは浮かんでこないです。
- ・良い方法は思いつきませんが、定年退職後の方に申し訳ないですがお世話になるとか、大学や高校に短期作業を委託する。
- ・もっとお米の価格を上げる国の施策を考えてもらわないと収入面で人の確保が出来ない。
- ・もっと若い人を出してやってほしい。
- ・過疎化による地域の人々の減少が進んでいるため、地域住民だけでなく外部からの人材確保が必要になってくると思います。
- ・ニーズに合った新しい作物を作るなど、田んぼの新しい活用や農業の魅力をPRし、農業に興味がある人のUターンやチャレンジの支援を整える。
- ・どんな農業をしたいのか理解できていないので育成もできません。
- ・村々でなく、全体で会社のような組織にしてはどうですか。
- ・若い世代が自分たちも参加したい、一緒にやりたい、自分たちでも出来ると思ってくれるような簡単なことから取り組んで行ったらいいと思います。
- ・各支店とも高齢化、後継者不足は避けられないのでは。外部からの人材確保も一考かと。そして農機具の最新化を計り効率アップを目指す。
- ・50・60才代の人をターゲットに法人の内容(メリット・デメリット農作業を行う理由)を理解してもらい参加してもらう。
- ・本店が数人の社員を雇用して、その社員を中心に全体の農作業を計画し、支店は応援して作業をする方法と思うと考えたら困難なことばかりかな。
- ・村おこし等大々的なイベントがあってもよいのでは。
- ・法人として年間を通じていろいろな作物を生産して、それを販売する販路を何とか見だしていく。年間を通じて途切れずに取り組む仕事が続くような作物計画が一番大切だと思います。
- ・稼げる農業に変えないといけない。日本の食品会社・企業を誘致し、トマト等の野菜、果物を作る農業を目指し

- ・の方が良い。今の農業はJAの小作人でしかない。
- ・高齢化が進み離農者が多くなっている為、農地の集約を図り、作業効率を上げるようにすれば少しは人の確保が出来ると思う。各作業前に出役依頼書を配布し若い人も出役してもらうようにする。
- ・出来る限り家族の中で育成していくことがまず[第一義]だと思います。
- ・すべての作業(草刈り～田植え～稲刈り)を法人で行い作業の手間賃を高くして作業人数を確保する。
- ・米と麦以外にも、女性が活躍できる野菜作り等を広めては。畑作業になれた元気な女性は沢山いるので働き場を。
- ・以前高畑町内でやっていた田植えまつり、収穫祭など若い人、子供参加の行事・イベントの開催。若い人が参加できるようにトラクター(耕起)コンバイン以外の乗用管理機・畔塗・汎用コンバインなどの講習会の開催。
- ・会社組織化し、月決めで出役料を払う。
- ・それぞれの支店では決まった人のみで作業をされている。これを全体で考えていかなければいつまでも同じ状態ではないと思う。
- ・人の確保については、営農のスタンスとしてお小遣いを稼げる副業であることを位置付けし、給与+α若しくは年金+αで懐が温まり、かつ地域社会に貢献できることを打ち立てて仲間を集めてはどうでしょうか。
- ・麦と米だけでは年間を通じての作業が無い。年間を通して作業を確保する体制が必要。
- ・担い手確保には営農事業は利益を出す事業として推し進めていかなければならないが、具体的には専門家の指南が必要と思われる。
- ・一部の者に偏らない全員参加が必要と考えます。
- ・各農家より、一人は営農に所属して作業すべきだ。
- ・やりたい人に入ってもらう。
- ・機械作業の作業員交代。
- ・今の法律では無理。(小作農業を知らない人が法律を作るので)
- ・少子高齢化により「人の確保・育成」は非常に大きな問題だ。
- ・若い人達が楽しく農作業が出来るようになったら良いのに。
- ・若い人に頑張ってもらいたいです。
- ・田畑の管理を委託している方でも動ける家族がいる方は作業に参加する。
- ・次代へ農業機械の講習を。
- ・労力に対する対価の明確化。
- ・機械化の推進を進めて、働き方の改善(?)は必要では?
- ・営農をやめましたので関係ありません。
- ・子供に教えないといけないかな～(してもらえたら)
- ・幅広い年代のグループの養成による作業の効率化を図る。
- ・全体で農業を行う作業員を集めて、具体的に作業を依頼するしかない。
- ・水稻を考えれば早生から晩生で効率化する必要がある。
- ・出役者の賃金アップ。
- ・若い人が住む町にしなければ解決策にはならないと思います。
- ・女性参加の推進。

★貴重なご意見ありがとうございました。皆さんの気持ちを真摯に受け止め、今後の運営に活かし、皆さんの思い描く理想の営農組合に少しでも近づける様努力したいと思います。又、ホームページにも随時情報を流していきますので閲覧よろしくお願い致します。